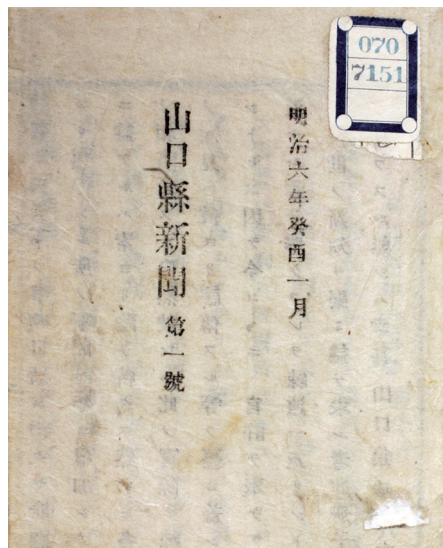


殖産興業（富岡製糸場伝習生の募集）



* 県庁戦前A総務2005「山口県新聞」

○今般上州富岡製糸場へ婦女子十七歳ヨ
リ三十歳マテ有志ノ輩五十人差遣ハサル
ヘシト縣廳ヨリ御布令アリ方今我邦ノ産
物ハ繭糸ヲ以テ第一トス當縣既ニ追々桑
植付ケ繭糸取方ノ事ニハ厚ク御手ヲ入ラ

解説

政府は1972（明治5）年、殖産興業の一環として群馬県富岡に製糸場を作りました。

写真は1973（明治6）年1月発行の「山口県新聞 第二号」です。記事の中で、山口県庁から出された富岡製糸場の伝習生募集に対して、進んで応募するように呼びかけています。記事の内容は次の通りです。

「今般、上州富岡製糸場へ、婦女子十七歳ヨリ三十歳マテ有志ノ輩、五十人差遣ハサルヘシト県庁ヨリ御布令アリ。方今、我邦ノ産物ハ繭糸ヲ以テ第一トス。当県既ニ追々桑植付ケ繭糸取方ノ事ニハ厚ク御手ヲ入ラレ御引立アル折柄、殊ニハ婦女子ト雖モ智識ヲ開キ巧業ニ熟シ自主ノ目的ヲ立ツヘキハ勿論ナレハ、渡リニ舟ト喜ヒ願ヒ出タキ事ナリ。且ツ、県庁厚ク御詮議アリテ途中旅費ハ勿論、指ス方ヘ行ヲモ不自由ナキ様御世話有ヘシトノ事ナレハ、一銭ヲ費サズシテ此春暖ニ乗シ、陸ニハ人力車アリ、海ニハ蒸気船アリ、面白キ事ニ非ズヤ。而シテ各習ヒ得シ上ハ、皆自身ノ利益ニテ終身自由ノ財本トモ謂ヘシ。尚、彼是思案スルハ愚カナル事ニテ、徒ラニ三絃謳曲ニ日ヲ消シ此好機会ヲ誤マラハ、後日、他人ノ巧事ニ熟シ産業ヲ作シ自主自由ヲ得ルヲ羨ヤム共、豈ニ及フヘケンヤ。父母モ亦タ僅カ三年ノ割愛ヲ厭ヒ、我児一生ノ業ヲ誤マラシムルハ慈悲ナシト謂ヘシ。アワレ壮年ノ女兒達。自ラ志ヲ発シ、三味線ヲ投げ捨テ、竹杖一本ニテ上程センコトヲ願フノミ」

実際には100名以上の応募があり、そのうち58名が選ばれ、4月と6月の2度に分けて派遣されました。伝習生の平均年齢は20歳で、出身地は県下全域にまたがり、そのほとんどが士族か地方の資産家の子女でした。フランス人技師ブリューナーの指導を受けた彼女たちにより、各地に新技術が普及していきました。

* 県が出した富岡製糸場伝習生募集の内容は、県布達類9「山口県布達達書原稿 明治6年前・後」収載の「富岡製糸場生徒募集ノ事」で見ることができます。

* 「山口県新聞」は山口県内最初の新聞で、当館には1, 2, 7号があります。